



No. 186
2015・March

VOS

長岡技術科学大学 広報

P12に登場!



原子システム安全工学専攻
修士課程2年
木村 龍太郎 (新潟県立長岡工業高校出身)

P6に登場!



機械創造工学専攻
修士課程2年
奥村 豪 (富山高専出身)

Happy graduation

特集 祝卒業・ 修了

page 02 学長メッセージ

page 04 副学長・市長
メッセージ

page 06 卒業・修了にあたって

page 15 贈る言葉

page 16 退職にあたって

page 23



シリーズ
全国高専めぐり

小山工業高等専門学校

page 24

修士論文
発表会
レポート
編集後記



TAKE
FREE
お持ち帰り自由!

¥0

卒業・修了を祝して



Message

長岡技術科学大学 学長

新原 皓一

Koichi Niihara



長岡技大の宝である皆さんへ！

大学院修了、学部卒業おめでとうございます。

そして、これまでご子息・ご息女の成長を温かく見守ってこられたご家族の皆様にご心よりお祝いを申し上げます。

皆さんは入学してから努力・研鑽を重ね、大きく逞しく成長しました。厳しく指導いただいた先生方、切磋琢磨し合った学友と紡いだ絆は、皆さんが築き上げた唯一無二の財産です。皆さんが今日の日を迎えることができたのも、ご家族、先生、学友、地域の皆様の支えがあったことです。感謝の気持ちを忘れないようにしてください。

皆さんはこれから新たなステージに向かい、科学技術創造立国を支えるグローバルに活躍できるイノベティブな技術者として活躍することが求められます。グローバル化による競争の激化、急激な少子高齢化の進行、産業の空洞化、地域格差が加速的に進行する我が国にあって、皆さんの活躍こそが我が国の未来を決します。我が国の諸課題と積極的に向き合い、その解決に重要な役割を果たして下さることを期待します。

皆さんの新たな人生行路には多くの希望、楽しみ、喜びのみでなく、挫折と逆境をも経験する機会が待ち

受けています。麦は踏まれてこそ、大きく成長し、凍てつく冬を乗り越えて結実しますし、我々の生活を豊かにしている様々な技術は、多くの失敗と挫折の繰り返しの上に成り立っています。私の半生を振り返って見ると、挫折と逆境は自分の生き様をモデルチェンジし、次のステージへ進む得がたいきっかけとなったように思います。挫折と逆境は挑戦する者に与えられる、新たなステージに進むための通過儀礼、そのことを胸に刻み、懼れず怯まず積極的に挑戦していきましょう。

本学では20年、30年先を見据えて策定した中長期成長戦略を教職員が一丸となって実行して大学の機能強化を進め、大学力は着実に上がってきています。これから社会で活躍する皆さんが母校として誇りを持てるよう、常に成長していきます。

昨年は、本学のこれまでの国際展開の実績と将来展開が高く評価され、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択されました。この事業の展開により構築されるグローバル産学官融合キャンパスを中核に据え、本学の強み・個性である産業界と密接に連携した技学を基礎にした実践教育を更に伸長させるとともに、海外大学・企業との相互交流を加速させ

世界の技術者教育と新産業育成を牽引する大学としての位置付けを確たるものとし、世界中から尊敬される、なくてはならない大学へと革新していくことを誓います。

皆さんも本学で培った学びや研究を、仲間や先生との絆を終生の誇りとし、本学の今後の活躍を見守りながら、未来を見据えて自分の進むべき道を切り拓いてください。

日本の未来を創り上げるのは諸君です。諸君の夢多き未来に乾杯です。



切り絵の似顔絵
(How to Art 部学生の贈り物です)

Congratulations on your graduation.

卒業・修了を祝して



Message

理事・副学長
(教育研究、中期目標・計画、
将来構想担当)

武藤 睦治
Yoshiharu Mutoh

卒業・修了を祝して

卒業・修了おめでとうございます。

これまで本学で身に付けた専門知識に加え「VOS」の精神(活力、独創力、世のための奉仕)を基に、夢や希望に向かって、ご自身の人生を歩んでいかれるものと思います。本学は他の多くの大学にはない実践的技術者を育成する教育プログラムに基づく教育を行っています。実践力とは、自分の持っているあらゆる知識、経験、能力を総合して実際の問題に応用・活用し、問題を解決する能力のことです。本学の学生でいる間は、なかなかそのことが分からないかもしれませんが、世の中に出ると、実践力が身についていることをきっと実感するものと思います。

このVOSの卒業号を手にするころには、皆さんはもう忘れていたかもしれませんが、安部首相が2月12日の両院本会議での施政方針演説で、「戦後以来の大改革」と表現し、農業、労働、電力などの

規制改革の実現を目指すことを強調しました。この演説では36回も「改革」という言葉が出てきたと新聞には書かれていました。少子高齢化、グローバル化が進み、戦後の高度成長期とは日本社会を取り巻く環境が全く異なっていました。この環境の変化は、さらに加速しています。それに対応し産業構造も変化しています。グローバルな活動をしている大企業とそれを取り巻く中小企業という構図ではなくなり、GDPの多くの部分を占める地域の中小企業・産業が活性化しなければ、日本の経済の再生はないと言われています。「地方創生」が叫ばれる所以です。この様な社会構造、産業構造の変化に対応するためには、様々な制度改革、規制改革を行わなければ対応できませんし、そうしなければもう経済がなりゆかなくなっていることは多くの国民の共通認識でもあるように思います。改革には苦しみを伴います。

しかし、これは逆にチャンスにもなります。また、将来に対する展望、夢があれば、苦しみを苦しみとは感じません。

現実の問題を解決する実践力を身に付けている皆さんは、自信を持って、また夢を持って、このチャンスを生かして下さい。本学も、少子化、グローバル化の波を受け、ドラスチックな大学改革が求められ、ここ数年で機能強化、教育組織改革、教員組織改革などに矢継ぎ早に取り組んできています。このチャンスを生かし、将来の日本で本学が着実に不可欠な役割を果たして行くために必要な改革に更に取り組んでいきます。そのためにも、皆さんの社会での活躍が大きな助けとなります。ともに未来に向かって進んでいきたいと思っていますので、時折でも母校を振り返り、「VOS」を思い出しながら、ご活躍下さい。

Message

長岡市長

森 民夫
Tamio Mori



誇りと自信で、 未来へチャレンジ！

長岡技術科学大学を卒業、修了する皆さん、心よりお祝い申し上げます。

貴大学は昨年9月、文部科学省から「スーパーグローバル大学」に選ばれました。これは、皆さんが時に苦しい研究を乗り越え、築いてきた成果が認められたものです。同時に、他大学の先頭に立ってチャレンジし日本のグローバル化を牽引してほしいとの期待も込められています。

皆さんには、大学の歴史の一ページを作ったこと、我が国の期待を背負っていることに誇りを持っていただきたいと思います。

今年は、地方創生元年にあたります。国も若者の起業や活力創造に正面から取り組む決意を示しています。長岡市も「ながおか・若者・しごと機構」を設立し、産・学・官・金が連携して、若者の起業支援や地元就職を促進するとともに、企業の経営力の強化を進めます。さらに、産学連携による製品開発に最大1千万円を補助する制度を新設するなど、若者のやる気を全面支援します。

皆さんは、大学生という人生の貴重な時間を縁あって長岡市で過ごしてく

れました。この春から、長岡を離れる方も多いと思いますが、いつの日かこのまちと再び縁を持ち、起業や研究をしてくれることを期待しています。

そして、皆さんが世界のどこに行っても、長岡で住んだことを誇りに思えるように、私たちは長岡の名をさらに広めていくよう努めてまいります。

戦後70年の節目となる今年8月15日には、アメリカ・真珠湾で、日米の戦没者への慰霊と世界平和を願う「長岡花火」を打ち上げます。これは、真珠湾攻撃を指揮した連合艦隊司令長官・山本五十六が長岡の出身であり、真珠湾のあるホノルル市と空襲で被害を受けた長岡市とが共同で行うものです。このニュースは世界に発信され、皆さんの耳にも届くと思います。ぜひ楽しみにしててください。

皆さんはこれからの人生、さまざまな壁に直面することでしょう。そんなときこそ、長岡技術科学大学で学んだ誇りと自信、そして長岡で出会った人や風景、長岡花火を思い出し、世界に臆することなく未来へチャレンジし続けてください。今後の活躍を市民みんなでお応援しています。



平成24年から毎年、ホノルルフェスティバルで打ち上げられている長岡花火。終戦70年となる今年8月15日、真珠湾で日米の戦没者への慰霊と世界平和を願って打ち上げます。



オープンから3年を迎える「アオーレ長岡」。若い人たちの創造力で多様なイベントが行われ、全国の注目を集める施設です。今後どのように成長していくのか、ぜひまた訪れてみてください。

Congratulations on your graduation.

卒業・修了にあたって



かがやき

機械創造工学専攻 修士課程2年 **奥村 豪**
富山高専出身 Go Okumura

本学を無事修了するにあたり、まずはご指導して頂きました先生方、私と仲良く遊んでくれた友人、そして絶えず応援し支えてくれた家族に心から感謝します。

私は本学で、多くのグローバルな経験をさせて頂いたと感じております。学内には多くの留学生が在学しており、研究や講義はもちろん、遊び、スポーツなどを通じて、予想以上に世界を身近に感じることができます。私は、本学の特色でもある実務訓練で、6か月間海外企業で経験を積み、日本とは異なる働き方、生活様式や文化といった“本物の海外”を感じることができました。海外の良いところはもちろん、日本のすばらしさや高い技術力を身を持って実感しました。この経験で自分の狭い狭い視野を大きく広げることができ、物事を幅広く、多角的に捉えることを学びました。将来、自分のフィールドを世界へ広げたい方、まずは

本学で世界を感じてみてはいかがでしょうか？

本学で過ごした4年間は、想像を絶するとても濃密なもので、一生忘れることはありません。おかげで、社会へ踏み出すいい準備ができました。

この春、日本人が築き上げた技術の結晶“新幹線”が北陸で産まれます。私も春から良いスタートを切り、大学の名に恥じぬよう将来かがやけるように頑張ります。



▲留学生とのフットサル



学生生活を振り返って

電気電子情報工学専攻 修士課程2年 **大矢 陽介**
群馬高専出身 Yosuke Ohya

長岡での生活も4年が経とうとしています。この4年間は辛くも楽しい充実した期間でした。最も印象に残っていることは岡元研での研究生活です。私が所属する研究室は、文武両道を掲げており、スポーツ活動に対しても積極的です。ソフトボール大会やゴルフ大会、テニス大会など、たくさんの楽しい思い出ができました。また、スポーツ大会後の打ち上げでは、ゲストとして来て頂いた方々への、おもてなしの精神を学ばせて頂きました。

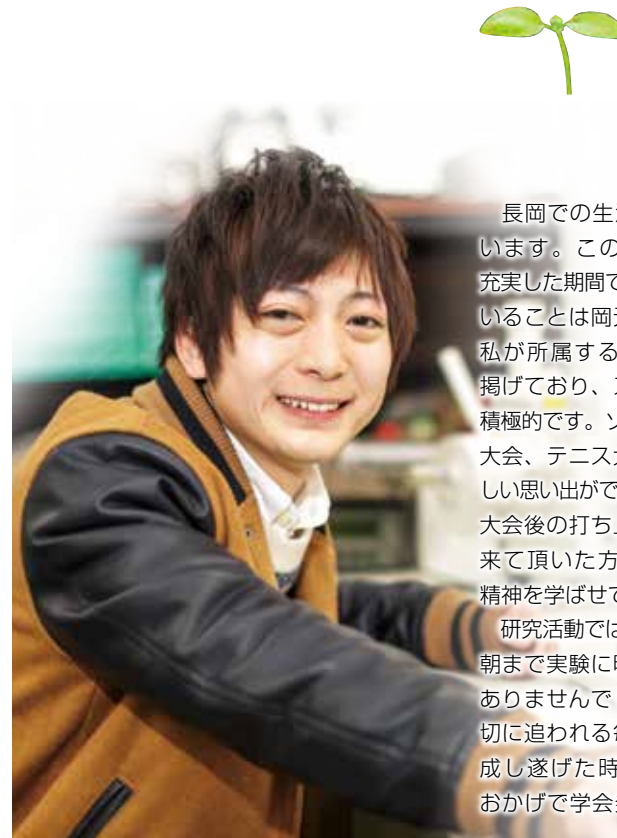
研究活動では、迫りくるゼミの為に、朝まで実験に明け暮れることも珍しくありませんでした。マンガ家の様にメ切に追われる毎日は辛かったですが、成し遂げた時の達成感は最高です。おかげで学会発表や英語論文の執筆

といった、貴重な経験をすることができ、とても充実した日々を送ることができました。

最後になりましたが、ご指導頂きました先生方、支えて下さった皆さん、そして家族に深く感謝致します。今後の社会人生活でも、これらの教訓を活かして頑張りたいと思います。



▲ ゴルフ大会後の打ち上げ



贈る言葉

自分に対する挑戦

機械系長 教授 **古口 日出男**
Hideo Koguchi

卒業・修了おめでとうございます。ご両親そしてこれまで支援をしてこられた方々に心からお祝いを申し上げます。皆さんは早春のこの良き日に新しい活躍の場に飛び立とうとしています。さて皆さんが大学にいる間、社会はめまぐるしく変化しました。技術の進歩はめざましく、グローバルに日々競争的環境下で世の中は進んでいます。では、皆さんはどのように対応したらいいのでしょうか。皆さんはこれまで大学で、機械工学の基礎と応用を学び、更に研究室で指導教員の先生から暖かく厳しい指導を受けてきました。これらの経験を生かして、新しい場でも勉強は長く

続けることになると思います。何事かを成し遂げるには、石の上にも3年といいますように、時間がかかります。技術の進歩は待ってくれません。しかし、先人の知識経験に基づいた基本を守り、そして応用展開を図る努力をすることにより、新しい技術確立することができます。これは技術進歩のサイクルとも言えます。すなわち、「守破離（しゅはり）」の流れです。その流れに身を委ねて、創造的技術者の道を邁進してください。

最後に、皆さんの今後のご活躍を心から祈念して、卒業・修了の言葉とさせていただきます。

贈る言葉

自分の目と頭で確かめよう

電気系長 教授 **大石 潔**
Kiyoshi Ohishi

ご卒業、ご修了おめでとうございます。

さて、めまぐるしく変化する社会の中で私たちは生きてゆかなければなりません。今までの常識が通用しなくなり、グローバル化の中での価値観のぶつかりを避けて通るわけにはゆきません。様々な局面で新しい判断がもとめられます。

みなさんは本学で工学を学ばれました。工学は目の前にある物体や現象を観察したり、また、データを正確に分析したりすることから始まる学問です。なによりも対象を正確に知ることが大切です。工学を通して培われたこのような

力こそが工学の現場だけではなく、現代の社会に最も必要なものであると私は考えます。

世の中の風潮や根拠のあやふやな強い言葉にただ流されるのではなく、自分の目で確かめ、知り、行動して欲しいと思います。

新しい世界へ旅立たれるみなさんの前途が明るいものであることを心よりお祈りするとともに、みなさん自身が明るい社会の創造者たらんとする気概を持って活躍されることを期待します。



Congratulations on your graduation.

卒業・修了にあたって



修了を迎えて

材料開発工学専攻 修士課程2年

二宮 南

大阪府立大学高専(旧 大阪府立高専)出身 Minami Ninomiya

大学に編入学してからの4年間を振り返ると、入学した頃と今では考え方や物事を見る視点が変わりました。

変わったきっかけは学部4年次の中国での実務訓練です。そこでの生活は衝撃の連続でした。異なった文化で育ち様々な考えを持つ人たちと交流するなかで自分の意思・意見をしっかり持つことの重要性を学びました。また、授業やニュースで見えるような中国と実際に滞在して感じた印象は全く違い、もっと他の国や地域に赴き自分の目で見てみたいと思うようになりました。また、研究生活においても今までよりも指導教官の先生と研究の進め方について意見交換をし、学会に参加したときにも自分の興味のある分野のセクションに積極的に聴きに行くようになりました。

就職に関しては海外実務での経験を積極的に活かしたいと考え、海外に多く拠点を持つ企業に就職します。

この4年間で学んだことを忘れずに、社会に出てからも様々なことに挑戦し続けたいです。

最後に専攻の先生方には学部の時から本当にお世話になり心から感謝しています。また、先輩、同級生、後輩とは日々の研究や日常生活において充実した日々をともに過ごせたことを嬉しく思います。ありがとうございました。



▲研究室メンバーと長岡大花火大会見物



卒業

建設工学専攻 修士課程2年

恩田 駿秀

長岡高専出身 Toshihide Onda

高専を卒業し、本学へ編入学してから早いもので4年がたちました。この4年間の間に先生方や、先輩方、同級生に後輩など、様々な人と関わることができ、充実した大学生活を送ることができました。また、試験勉強や、アルバイト、実務訓練、研究活動等、様々な場面で自らを成長させていくことができたと思います。特に、実務訓練では、約5ヶ月間に及び実際の企業の中で業務に携わらせていただき、本当に良い経験をさせていただきました。その経験は、研究や就職活動を進めるうえでも活かすことができました。

思えば、高専入学から数えて、9年間も土木技術者の卵として勉学に励んできたこととなります。そして、ついにこの春から、目標であった橋梁の技術者として社会に旅立ちます。社会人

として仕事をしていくということは、想像以上の苦労もあると思いますが、これまでに学んできた様々な知識や経験を十分に活かしつつ、社会に貢献できるような技術者として成長していきたいと考えています。

最後になりますが、在学中、お世話になった皆様に、いま一度感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました。



▲研究室での黒部ダム見学

贈る言葉

卒業修了おめでとう

物質・材料系長 教授

小松 高行

Takayuki komatsu

学士、修士、博士の学位を取得した皆さん、卒業・修了おめでとうございます。この日を皆さんの勉学と生活をいろいろな面で支え、励ましてくれた家族や友人と一緒に大きな喜びで迎え、また、明日からの新たな生活にさらなる大きな夢と希望を抱いていることと思います。

人の一生には、様々なターニングポイントがあります。それぞれのターニングポイントでは、自ら決めた道に、自らの足で進まなければなりません。本学で過ごした時間は、皆さんの人生での“大きな道”であり、多くの友人と出会い、

多くのことを学びました。卒業・修了というターニングポイントで、それぞれが違った道を進むことになります。辛い時には長岡で過ごした道を思い出してください。本学にはVOS(活力、独創力、世のための奉仕)という大きな道標があります。皆さんはその道標を見ながら、創造的かつ実践的な勉学と研究をして来ました。皆さんの前には、希望に満ちた豊かな森が広がっています。柔軟な発想を持ち、時には新しい道を切り拓きながら、力強くこれからの人生を歩んでください。



贈る言葉

船出

環境・建設系長 教授

杉本 光隆

Mitsutaka Sugimoto

卒業・修了を迎える皆さん、誠におめでとうございます。また、皆さんを支え続けたご家族の皆様にもお祝いを申し上げたいと存じます。

物心ついてからこれまでの時間を1単位とすると、平均的には、社会の中でメインプレーヤーとして過ごす時間が2単位、その後の社会からフェードアウトしていく時間が1単位くらいですから、若い皆さんには、これから先、膨大な時間があります。こうした膨大な時間を有していることは、若い人の特権であり、若い人の可能性に繋がります。

そうした時間を生きていく中で、おかれた自然環境、社会環境を背景として、人は数え切れない選択・判断を行っていきます。さらに、人は、家族、親戚、友人、仲間等が行う

無数の選択・判断に影響を受けるとともに、無数の幸運・不運があり、それらが総合された結果として、その人の現在があり、将来が決まっています。この組み合わせは無限であり、その過程、および、その結果は、神のみぞ知るです。

人生にifはありません。もう戻ることのできない大きな選択・判断もあります。おかれた状況でその時自分ができる最善を尽くすこと、そして、その努力を継続することが、過去を振り返ったときに悔いが残らない、自分でできる唯一の方法だと思います。本学で培ったものを基礎として、自分の羅針盤を持って、社会に漕ぎ出していった下さい。

皆さんの将来に幸多かれと祈ります。



Congratulations on your graduation.

卒業・修了にあたって

さらに先へ

生物機能工学専攻 修士課程2年 **森 光佑**
産業技術高専出身 Kosuke Mori

私は高専では機械科に所属していましたが、現在では生物を専攻しています。機械科にも未練はありましたが、工学と生物を絡めた新たな考え方を知るチャンスだと思い、生物機能工学課程に編入することにしました。他分野からの移行なので最初は授業についていくので精一杯でしたが、毎日が新鮮で面白く過ごせたかなと思います。研究室に配属されてからは与えられた研究テーマが楽しく、つい遅くまで残って実験ばかりしていました。そんな日々の中で漠然とこのまま博士後期課程へと進むのだろうと考えていました。

そんな私に転換期が訪れました。それは学会で有名な先生のご講演を聞いた時のことです。その方は講演の最後に「Go ahead!」と、要約すると「進み続けろ!」と何度も言っていました。私はその講演で、研究には明確な終わりは

無く、諦めない限りずっと先まで続くことを思い知り、自分の研究のことをもっと知りたいという強い思いを得ました。その学会での言葉が原動力となり、博士課程へ進学することを改めて決意しました。今回、博士後期課程の修了という一つの節目ではありますが、ここで立ち止まって一休みするのではなく、さらに先に向かって走っていきたいと思います。



▲学会ポスター発表の様子(2014)



今、思うこと

経営情報システム工学専攻 修士課程2年 **小笠原 貴之**
長岡高専出身 Takayuki Ogasawara

これまで学習した工学の知識を実務に活かす術について学ぼうと決意し、それが叶う本学の経営情報システム工学課程へ編入した日を、まるで昨日のように覚えています。私には一度社会人の経験がありますが、再度学生に戻ることは、学修する根本的な意義を見直す良いきっかけとなりました。特に、知識を得る喜びに気づけた事は今後の人生において大きな財産となることでしょう。ひとえに諸先生方のご指導によるものと思います。

いわゆる「大学生デビュー」により、違った価値観を持つヒトの行動原理について身を持って体感したことも良い経験となりました。元々内向的な性格が更に極まったような性格でしたが、これが高じて人と接する度胸が身に付きました。お陰か、技大という優秀かつ変わり者のたまり場で、多くの個性的な友人が出来ました。恵まれた環境に身を置けたことを、ただただ感謝するばかりです。

4月から2度目の新社会人生活が待っていますが、私はそれが楽しみで仕方ありません。技大で得た多くのモノを胸に、VOSの精神を忘れず、

在学期間と同じくらい勉学に励み、社会に貢献できるビジネスパーソンになりたいと思います。



▲未来の私です(笑)
(後輩が作成したコラージュ画像です)



▲(2014年2月) 研究室慰労会の様子

贈る言葉 生き抜く力

経営情報系長 教授 **山田 耕一**
Koichi Yamada

経営情報システム工学課程・専攻を卒業・修了する皆さん、おめでとうございます。皆さんは、本課程・専攻において、これからの時代に必須といってもよい情報・IT技術と経営・マネジメントの知識、さらには困難な問題を自力で解決する力を身につけました。しかし、21世紀の半ばに向け、日本社会は以前にもまして激しく荒々しい時代を迎えます。日本の30年後、皆さんが両親の年齢になる頃の日本について、明るい展望を持つ評論を探すことは容易ではありません。ネットを検索しても明るい未来はほとんどない。

本課程・専攻で学んだ知識・問題解決力は、そんな未来を生き抜くための最低限の能力でしかありません。社会に出てから、本学で学んだ専門

知識を直接活かす仕事につく人も、そうでない人も、生き抜くために本当に必要なものは、自分で勉強する力です。新たな勉強の必要を感じる力、忙しい日常の中で新たな勉強を始める気力と実行力、そして継続力。それらの力を育て、持ち続けるタフさが、21世紀の日本で、世界で、充実した人生を送るための鍵だと私は思います。

そしてもう一つ。どのように厳しい世の中になっても、自分達の利益ばかりを考える大人にはならないでください。ハードボイルド風にいえば、【優しくなれなければ生きていく資格がない(Philip Marlowe)】のだから。皆さんの健闘を祈ります。

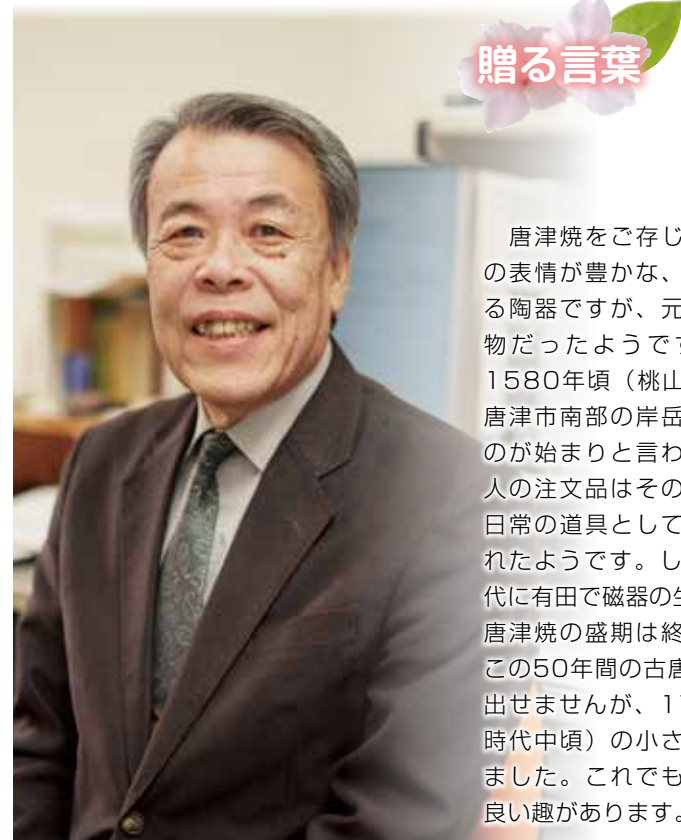


贈る言葉 温故知新

生物系長 教授 **下村 雅人**
Masato Shimomura

唐津焼をご存じでしょうか。土の表情が豊かな、茶人にも好まれる陶器ですが、元々は庶民の焼き物だったようです。その起源は1580年頃(桃山時代)に遡り、唐津市南部の岸岳古窯で焼かれたのが始まりと言われています。茶人の注文品はその一部であって、日常の道具として多くの器が作られたようです。しかし、1630年代に有田で磁器の生産が始まると、唐津焼の盛期は終りを迎えます。この50年間の古唐津は高価で手を出せませんが、1700年代(江戸時代中頃)の小さな器を手に入れました。これでも、使ってみると良い趣があります。

現在では、唐津市だけでも70もの窯元があるそうです。作品には古くからの技巧が生きており、それぞれ個性もあって興味は尽きません。唐津の近くには、鹿児島高専を卒業し、橋梁設計の仕事に就いたのちに唐津焼の道に入った新進の若手作家の窯もあります。いずれの窯にも共通していると思われるのは、先人の技と感性を探索しながら絶えず新しいものに挑戦していることでしょう。我々の技術科学も新しいものへの挑戦に他なりません。先人の考えや技術を良く学ぶことは重要なことです。故きを温ねて、新しきを知れば、以って師と為るべし。



卒業・修了にあたって



二年間を振り返って

原子力システム安全工学専攻 修士課程2年 **木村 龍太郎**
新潟県立長岡工業高校出身 Ryutaro Kimura

私は大学院入学まで原子力をほとんど学んでおりませんでした。そのため、最初は講義や研究についていけないのか等の不安が多々ありました。しかし、講義では基本的な部分からしっかり教えて頂け、原子力発電所の見学や学生実験を通じてより理解を深めることができました。また、原子力の分野は非常に幅広いため、学部時代に学んだ部分が応用できるところもあり、当初の不安はすぐになくなりました。講義内容は知識を詰め込むだけでなく、積極的な意見交換が必要なディベートや、問題点を改善する方法を模索するレポートなどがあり、原子力の分野で重要である知識以外の部分の力を身につけることもできたと考えております。研究では、先生方とディスカッションしながら、試行錯誤を繰り返すことで専門的な知識はもちろんのこと、目標に向かう力を向上させることができたと思ってお

ります。これら以外にも、学会発表やインターンシップ、餅つき大会、飲み会など遊びを含め様々なイベントがあり、非常に充実した日々を過ごせました。

このような日々が過ごせたのは、先生方をはじめとする多くの方々の支援があってこそです。この二年間で培った様々な経験と周囲の方々への感謝を抱え、これからの社会人生活を歩んでいきたいと思っております。



▲研究風景



悩み苦しむことを楽しみ、 当たり前のありがたみを 実感するという贅沢に感謝

システム安全専攻 専門職学位課程2年 **櫻井 剛**
Tsuyoshi Sakurai

自動車関連システム・ソフトウェア開発分野に長年関わっておりますが、「安全」についてもきちんと学びたいと思い、2013年より再び本学にお世話になりました。「うまくいっていないということだけは見えていても、問題を具体的に定義することができない」というところからのスタートでしたが、講義や受講生との討論を通じて、多くのことが見えてきたように思います。

安全に関わる上では「当たり前」の定義や価値に対する感度を高めることは極めて重要だと思います。しかし、同じ環境が続けば目立ちにくいものの有難みを見落としがちになります。ご自身の感度調節ツマミをリセットする

ために、卒業・終了しても時折本学を訪れてみてはいかがでしょうか？さらに本学のシステム安全専攻でさらに学ぶということも、相対的に低リスクかつ実りの大きな選択肢だと思います。時とともに社会が変化することで「安全」の概念も変化しうるので、学び続ける対象としては格好のものとなるでしょう。

最後に、このような素晴らしい機会を下さった多くの方々と、システム安全専攻関係の皆様、そして長岡技術科学大学に感謝しますとともに益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



贈る言葉

アイデンティティーと慣性と

原子力安全系長 教授 **小川 徹**
Toru Ogawa

私の日常使っているUbuntuの日本語インプットは、はなはだ出来が悪くて、「孔子」の二文字を出すのに随分苦労します。何でも只で済まそうとするので、多少の不便は我慢しないといけないのですが。さて、孔子様の言葉に「十有五にして学に志す。三十にして立つ。」云々というのがありますね。この理想を現代に当てはめようとすると、時間の過ぎ方が昔とは大分違うので、当時の十有五、三十というのが今の何歳に相当するのか考え込んでしまいます。ともあれ、学校を出て就職するあたりというのは、おおむね志学・而立(自立)のあたりでしょうか。私自身の年齢は耳順のあたりでしょうか。なかなかそういかないのは、人の役割に昔は季節のように明確な区切りがあったものが、いまはその節目がはっきりしなくなっているからでしょう。

しかし、学校を出て社会に出るのが、ひとつの分かりやすい大きな節目であることは間違いありません。

このごろはあまり聞かなくなりましたが、かつてはやった言葉に「アイデンティティー」というのがあります。平たく言えば自分らしさということでしょうか。社会の中で自分を保つのは難しいことですが、一方、変えようとしてもなかなか変えることのできないものでもあります。慣性の法則にさからって何事かを成し遂げるのは、ほんのささいなことであっても実際難しいものです。しかし、学校を出てこれまでは別の社会に踏み入るときは、この慣性をいやおうなく破り、新しく自分を立てる絶好の機会でもあります。是非この機会をうまくつかまえて下さい。



贈る言葉

安全のプロフェッショナル としてご活躍する皆さんへ

システム安全系長 教授 **平尾 裕司**
Yuji Hirao

システム安全専攻を修了された皆さん、誠におめでとうございます。責任ある社会人としての仕事とシステム安全専攻の勉学を両立したこの2年間の多大な努力に敬意を表します。

皆さんは2年前に高い志を抱いてシステム安全専攻に入学されました。それぞれの専門分野は異なりますが、システム安全専攻の授業で学んだことを各自の専門分野にどのように適用、展開していくべきか真摯に考えられていました。クラスのなかでも後輩の9期生の皆さんを含めて情報交換を活発に行うほか、東京での安全に関する講演会や研究会などにも積極的に参加されていました。その集大成ともいえるプロジェクト研究発表では、それぞれの専門分野における安全のプロフェッショナルになろう

という強い意志が感じられました。

安全のプロフェッショナルであるためには、それぞれの専門分野における安全について深い知見を有し、最新情報を常にフォローアップする必要があります。システム安全専攻では、安全安心社会研究センターやOB会と連携した年2回の講演会開催など、修了生の皆さんの生涯学習の機会を確保していきます。

これまでのシステム安全専攻修了生は100名を越え、安全に関する国内委員会や国際会議等での活動を含め、いろいろな専門分野で活躍されています。8期生の皆さんがこのようなシステム専攻修了生のネットワークに新たに加わり、安全のプロフェッショナルとして活躍することを期待しています。



Congratulations on your graduation.

卒業・修了にあたって



思い出、出会い、永遠の友情

情報・制御工学専攻 博士後期課程3年生
シモンボリバル大学（ベネズエラ）出身

ホセ ルイス カスティーヨ ペRez

José Luis Castillo Pérez

2010年に本学大学院での勉学を始めて以来、私は、新たに素晴らしい人々と知り合い、国際会議で様々な国を訪ね、そして、外国で知り合った人たちのネットワークを通じて研究の裾野を広げることができました。また、学内で様々な国から来ている実に多くの学生と友達になり、そして、しばらくして卒業により離ればなれになるということは、私にとって感情を大きく揺さ

ぶられる経験でした。彼らは私に良い刺激を与えてくれました。近い将来、彼らにまた会えることを望んでいます。私は、彼らとの出会いに感謝していますし、近い将来、子どもができれば、同じような経験をしてみたいと思っています。学生みなさん、人生を楽しみましょう。そして、夢に向かって、あきらめることなく勉学に励みましょう。



▲タイでの国際会議に参加して

Memories, Opportunities and Everlasting Friendship

Since I started my postgraduate studies in 2010, I have gotten to know new and wonderful people, gone abroad many times for international conferences and expanded my research horizons by networking with professionals abroad. It has definitely been a rollercoaster of emotions, especially because I made a ton of new friends from many different countries in our university and have had to see them go away after a short period of time. They have made an impact on me and I hope I can see them again in a near future. I am thankful for the opportunities this university has given me and I wish this could remain the same for my juniors in the near future. To every student, I recommend you to enjoy life and study without giving up on your dreams or social life!

贈る言葉

門出の朝 言祝ぎ詠める

教育開発系長 教授 **稲垣 文雄**

Inagaki Fumio

暖かい朝も
雪の学舎に
思ひこむ夜
落ち込む夜
は

風が吹くとも
雨が降るとも
われは行く
ただひたむき
この道を

みき師父め
ずの慈母の
かうより愛喜
の歩む道



Face to face

むつみ会・会長 **長尾 すみ子**
Sumiko Nagao

ご卒業、修了される皆さん、おめでとうございます。

留学生の皆さんは、学生生活を振り返りどんな事を思い出されるでしょうか？

日本、そして長岡の地に降り立ち、再び羽ばたいていく今、何に思い馳せていらっしゃるでしょうか？

私達むつみ会メンバーは、毎週水曜日に学内のカウンセリングルームで皆さんとお話させて頂いています。生活相談を軸に様々な話でルームは笑い声につつまれています。

また、平成26年度むつみ会行事においては春・夏のバザー、座禅と茶道体験、ハイキング、スピーチコンテスト、バス旅行を実施し沢山の方に参加していただきました。

さて群馬県・たくみの里バス旅行の一コマをご紹介します。

リング狩りやそば打ち体験は大人気の応募となりました。

雲ひとつない秋の晴天に恵まれ、満員御礼のバスに揺られていざ到着。そしてまずそば打ち体験。お店ののれんをくぐり、5～6人のグループに別れ、それぞれエプロン姿でやる気満々の様子。作業台を囲んで手順を確認。

そば粉と水を混ぜ、手際よくまとめず、みんなでひとこねづつ100回こねます。よいしょ、よいしょ、となかなか力が入り、

学生の皆さんも顔に汗が滲みます。麺棒でのばすと長方形に近つかず、思いとは別の方向へすすみ大慌て。皆さんの見守る眼差しも厳しくなります。今度は2mmに切り分けます。大きな幅の包丁で慎重に慎重に。そうこうしているうちに様々な太さのそばが出来上がり、思わず苦笑い。そして「完成！！」みんなの声が上がります。さて美食。自分で作ったおそばの何とおいしいこと。皆さんでおいしさを噛みしめました。皆さんと力を合わせて作り上げた瞬間、私は心に思いました。

いつも食べているおそばを自分自身の手で、みんなと力を合わせて作る事ができた喜び。これは、体験しなければ解り得ない実感でした。

どんなに通信手段、交通機関が発達しても、人と人の繋がりとはFace to face。自分達の手で目で目で駆使した営みが、その人の生活、人生を充実させてゆくのではないかと。

これから新しい世界に歩み出す皆さん。日本で長岡で体験した経験がこれからの大きな支えとなりますよう願っております。

むつみ会もそのお手伝いを微力ながらさせて頂きます。

また、むつみ会でお会いできることを楽しみにしています。

どうぞお元気で！！



▲そば打ちの様子

おめでとうございます

同窓会会長 **磯部 広信**
新潟県立上越総合技術高等学校教諭
Hironobu Isobe

卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。同窓会を代表して心からお祝いを申し上げます。そして同時に、長岡技術科学大学同窓会の正会員になられたことにも心からお喜び申し上げます。

現代は「個性の時代」と言われています。「その通り」と感じる時も、「？」とを感じる時もあります。

「個性の時代」であってもなくても、皆さんは、今、個性の宝庫です。例えば、皆さんはこれまでの学生生活で、研究に邁進できる姿勢・体力を伸ばしてきました。この面は、技大に在学中は、全く個性的とは言えません。全員がそうだから。でも、社会に出て発揮すれば、「デキる人」と見られることでしょう。どんどん発揮していきましょう。

「個性」とは、努力して作るものでもあるけれど、持って生まれたものや、生活してきた環境によるものが大きいのではないのでしょうか。自分の個性を発見したり、発揮する機会はまだまだあります。周囲が見出してくれる場合も数多くあるでしょう。自分の弱点と知っていることも、あるいは個性かも。もちろん、無理に個性的であろうとする必要ありません。

どんな状況であろうと、皆さんは一人一人が何よりも大切な存在です。自分を大切にしてください。そして、家族を、恩師を、仲間を大切に。

今後も、何事に対しても慎重に、しかし臆することなくぶつかっていき、より充実した人生を送っていただくよう、心よりお祈り申し上げます。



Congratulations on your graduation.

退職に当たって



レーザーとともに 京都・東京・長岡

電気系 教授

打木 久雄

Hisao Uchiki



大学院入試の面接で希望を問われ、量子効果を取り入れた抵抗やコンデンサなどのエレクトロニクスと答えましたが、当時、そのような研究はなく、新設の量子エレクトロニクス・非線形光学の研究室に配属されました。これがレーザーとの付き合いの始まりです。当時は最新の輸入レーザーでも2分に1パルス程度の手動駆動であり、これでレンズなどの光学調整を暗所でするわけですから時間を要しました。以後のレーザー装置の発展は目覚ましく、パルス幅はナノ秒からピコ秒・フェムト秒になりました。現在、多くのレーザーは家電製品のように

にスイッチを入れるだけで発振します。しかし、京都・東京・長岡と約40年間、大型レーザー以外の一通りのレーザーに触れてきたものとしては装置を手で調整し発振させ、信号を検出することこそ実験屋の醍醐味を感じます。実験が上手くいかないときはとにかく“よく見る”ことです。実際にはこれは容易なことではありません。見たつもりでも実は見えていないのです。長岡でも飯田誠之先生を始め、多くの先生・職員のお世話になりました。学生との議論が研究室を支えてくれました。若いころは考えもしなかった定年を無事迎えられそうです。

長岡の11年間

経営情報系 教授

福村 好美

Yoshimi Fukumura



2004年着任以降、本学教員各位と事務職員の皆様には、大変お世話になりました。皆様のご協力を得て多くの課題に取り組む機会に恵まれ、充実した教育研究活動ができました。研究・授業を通じて、学生達が内在する能力を発見することがあり、教育の重要性を感じたことも何回かありました。遠くの雪を冠った山がきれいだったこと、濃霧の閑越自動車道を心細く走ったこと、東京から見に来た家族が花火に大いに感激したことなどを思い起こします。

プロジェクト推進では、苦しい局面が多くありましたが、時には、安岡正篤の六中観(死中有活、苦中有楽、忙中有閑、壺中有天、意中有入、腹中有書)などを想起しつつ難

題に取り組む日々だったように思います。学会・プロジェクトを通じて多くの研究者・教育者と交流でき、大変有意義でした。

文科省支援事業であった現代GPとそれに関連するプロジェクトにおいてご支援ご協力いただいた先生、さらにはeHELP(eラーニング高等教育連携)で単位互換の実践と共同研究にご賛同いただいた多くの高専教職員の皆様に、心より感謝いたします。最後に、この数年間、WGの皆様と取り組んできました教育システムが、多少なりとも本学の教育改善に役立つことを祈念しております。

技大の発展とともに

物質・材料系 教授

野坂 芳雄

Yoshio Nosaka



上越線 急行「佐渡」に乗り、初めて長岡を訪れたのは1979年12月、本学の建物が完成間近の雪の日でした。同年夏、勤務先の理化学研究所で技大の三山教授と藤井助教授にお会いする機会があり、その時の紹介で、川上学長の面接を受けに来たのでした。翌年4月に赴任してから早35年が過ぎました。赴任直後は実験設備が揃わず不便しましたが、自作の装置でなんとか研究を始めることができました。研究室の学生とは、夏は海水浴、秋はテニス、冬はスキーと四季を通じて研究以外でも一緒に長岡の生活を楽しみました。自然環境に恵まれた長岡で、ユニークな教育理念のもとで、多くの教員・職員の協力を得て教育研究を全う

できたことを感謝しております。高専卒業生を4年間一貫教育し修士課程を修了させるという、実務的な教育理念は、基礎的な分野に偏りがちな私の研究を進めるうえで良い指針となりました。基礎的なものほど応用範囲が広いと思うのですが、応用の方法を身に付けた学生を充分育てられたかを振り返って考えると、忸怩たる思いがあります。最近では教員の学生に対する期待と学生の大学に対する期待が、必ずしも一致しない傾向にありますが、困難を乗り越え、今後も、小規模大学の特徴を生かして、大学が発展し続けることを願っております。

深くこの生を愛すべし

生物系 教授

福本 一郎

Ichiro Fukumoto



居合道朝稽古五千日達成日(本学武道場)

9年間のスウェーデン留学を終え1991年春本学に着任してから24年間に、卒業生121名(博士11・修士89・学士18・うち臨床工学技士10)と公表論文100編を含む学会発表1055編・特許出願23件を、浅学非才の小生が世に送り出すことができましたのも、ひとえに皆様のご協力の御陰と感謝しています。福本研究室は医学・工学境界領域にある医用生体工学Biomedical Engineeringを専門としておりましたが、恩師の斎藤正男東大名誉教授は赴任に際して「工学は人々の幸せのためにのみ存在する」と激励してくださいました。そのお言葉を胸に本学奉職中、死者行方不明者25,315人の犠牲者を産んだ阪神淡路大震災(1995)を始めとして、中越地震

(2004)・中越沖地震(2007)・東日本大震災(2011)の四大地震を自ら経験し、工学者としてこのような悲惨な被害を少しでも減らそうと思い、産学官共同の「災害ME研究会」を立上げて救命ロボットなど大災害時救命技術の開発に努めてきました。今後も本学卒業生におかれては「深くこの生を愛すべし(会津ハニー)」の大学人精神と「絶対の安全はない」という安全安心技術哲学を忘れず、日本の科学技術と産業の発展に寄与されることを願っています。最後になりましたが、酷寒の冬も猛暑の夏も五千日の朝稽古を共にした本学武道場に感謝するとともに、小生の大学人生活を暖かく支えてくださった本学職員の方々のご多幸をお祈りいたします。多謝多謝!

退職に当たって



10年の長岡での研究生活

生物系 教授

古川 清

Kiyoshi Furukawa



大学院を修了するとすぐに米国に渡り、7年間の留学生活を送りました。その後東京へ戻り、大学で8年、研究所で11年を過ごし、故郷の長岡に戻ってきました。振り返ると、人生にほぼ10年ごとに区切りを付けていました。区切りの度に諸々のことを反省させられ、環境の変化から発想を転換し、以前気がつかなかったことにも目を向けていました。東京では臍帯血から血液前駆細胞を高価な抗体を用いて調製し細胞分化のメカニズムを解析していましたが、長岡に来てからは山河に遊びプラナリアやミミズを材料とし、個体再生のメカニズムの解明も試みてきました。自然はまさしく研究者の教師です。今、また新たな区切りに接し、未知を切り開く研究の素晴らしさを改

めて噛みしめています。同時に研究に区切りはなく、遥か彼方へと続く深遠な道にさらに冒険心をかきたてられています。

本学には全国の高専から多様な学生が集い、研究でもその個性を発揮してくれました。それは新鮮であると同時に、多様性に潜む脆さもありました。そこで「もう30%志を高く抱け」を研究室のモットーとして、10年歩んできましたが、山あり谷ありの研究生活でした。苦勞した学生さんほど思い出深く、その後の彼らの成長が楽しみです。昨今、大学は未曾有の改革に迫られています。大学の存在意義はまさに基礎研究にあり、分相応にして大いなる個性を発揮して欲しいものです。

教育の力

生物系 教授

三木 徹

Toru Miki



本学に赴任する前はがん遺伝子の単離や基礎研究に従事してきた私が工学部で研究・教育に従事するに当たって考えたのは、これまでの研究を基礎にして副作用のない新世代の抗がん剤の開発を試みる事でした。新しい研究室には実験台さえなく色々な苦勞はありましたが、初めてオフィスの窓から見る雪山の景色がとても素晴らしかったのが強く心に残っています。

やっと研究室の運営が軌道に乗ったものの、教員一人の研究室では抗がん剤開発も夢で終わるのかなと思った時もありました。でもそんな折りに不思議な力を発揮して目標の達成に貢献してくれたのは、助教の指導なしでも実験ができる能力を持つ何人かの素晴ら

しい学生達でした。毎年理化学研究所に2名ずつ実務訓練に派遣していた学生達も、全員がとても好評でした。学生は教育次第だということを体験したのも本学が初めてです。講義でも本学の学生に適した教育法を考えて常に新しい手法を取り入れてきましたが、特に最後の大学院の授業で半数以上の学生達が高度な内容をよく勉強してくれたのがとても印象に残っています。これまでに出会った学生達の中にこれからの本学を背負って立つ人材が出る事を期待すると共に、本学のますますの発展をお祈り致します。

(写真は齊藤副学長の撮影による)

今、新構想大学は・・・

教育開発系 教授

稲垣 文雄

Inagaki Fumio



32年前の春、当時存在した計画・経営系の文化構造学講座の教員としてこの大学にきました。初代学長の川上先生の時代で、新構想の大学としての草創期の清新な息吹があふれていました。自分も大学も若かった。

以来、フランス語と文化科目を担当してきました。そのあいだ、大学を取り巻く社会環境はおおきく変わり、学内も変わりました。人文科学や社会科学の専任教員は、ひとり減り、ふたり減り。文化や社会を冠する教育研究組織もなくなりました。

今あらためてこの32年間を振り返ると、この大学は次第に普通の工学系大学になったように思います。耳にする目標は、他の工学系大学で掲げられているものとおおきく変わるところはないようです。

建学以来、学部入学者の約80%を

高専から受け入れていますが、それをもって新構想大学であると唱えるなら、一般大学が高専卒業生を積極的に受け入れ、高専生にとってこの大学が多数の進学先のひとつとなった時点で、新構想の存在意義は失われたはず。新構想とはそれだけではなかったはず。草創期には、既存の工学系大学にはない人材育成を目指すということが標榜され、独自の建学の理念が熱く語られました。実践的とはどういうことか、工学知識に加えて文化的な素養や経営的センスを併せ持った研究者・技術者を育てよう、など。

今、大学淘汰の時代、かつての議論を現状に立脚して再吟味し、具体的な人材育成コースを提示して、他とは違った新構想大学として世に問う意気はないのでしょうか。

胡蝶の夢

経営情報系 准教授

村上 直久

Naohisa Murakami



人生の半ばにして暗い森に迷い込んだダンテ(中世イタリアの詩人・政治家)はその後、地獄、煉獄…を巡ることになりました。私は2001年に本学に赴任する約1年前に二つの夢を見ました。長岡技術科学大学に転職し、宿舎を探す夢、そして若い時に赴任していたニューヨークと西日本の故郷の街並みが融合し、その中を彷徨する夢でした。実現したのは前者でした。

語学センターに6年間、経営情報系に8年間。厳しい気候の長岡で大病を患うことなく、身体的な健康を維持できたのは幸運でしたが、前職(ジャーナリスト)とのさまざまな面でのギャップや「蛸壺的象牙の塔」における人間関係(の

稀薄性?)に悩み、気が晴れることはあまりなかったように思います。

そうした中で、私の研究室(国際政治経済研究室)に集い、論文を書き上げて社会に巣立っていった学生諸君が10名を上回りました。ひそかな誇りです。先日、彼らは東京都内で開いたOB会に招待してくれました。また、国際情勢の授業で熱心に発表や討論を行った、優秀な留学生諸君の眼の輝きも忘れられません。一方、うつ状態に陥り、退学した学生もいたことは痛恨の極みです。

「胡蝶の夢(荘子の説話)」で、思うこと:「吾が生や涯てありて、知や涯てなし」。

退職に当たって



退職に当たって

教育開発系 准教授

高橋 秀雄

Hideo Takahashi



気が付けば、私は長岡に30年以上過ごしたことになります。山の向こうの空っ風は経験しましたが、雪国の生活には慣れておりませんでしたので、当初はいささか面喰いしました。慣れないことゆえ、屋根の瓦が見えるほどに雪を下し、後日、隣の家の人に叱られました。瓦が見えるまでおろしてはいけないのだと。当時、大雪の日は度々帰りのバスが来ず、待ち時間が数時間に及ぶこともあり、忍耐力を鍛えられました。

雪に悩まされたことばかりではなく、楽しいこともありました。てくのろ山岳会はずでに解散してしまいましたが、時々、近くの山々を歩けたのは望外のことでした。大学の居室の窓から東山の背後に

見える守門岳には度々登りました。今の住居に移って20年足らずですが、庭に咲く春の花を楽しんでおります。近年は慌ただしい時間ばかりで、手入れもできず花の数も減ったようですが、雪解け後の花々の美しさは格別です。これからは少しは手入れもできるかと思います。生涯、最も長く住んだ場所の割に慣れた気がせず、いまだに余所者の感覚がしております。

永い間、大学の職員の皆様にはお世話になりありがとうございました。皆様のご健勝をお祈りいたします。

定年を迎えて

総務部 研究推進課長

清水 明

Akira Shimizu



昭和60年4月、東京学芸大学から転任し、途中、長岡高専で3年間の勤務を経験しましたが、本学には併せて30年間という長きに渡り勤務させていただきました。本学での勤務経験は、転任当初から比較的短いサイクルでほとんどの事務局各課を経験させていただきました。総務、教育、研究、学術等に関する仕事の一端を健康で真面目に組織の一員として務めさせていただいたことは本当に幸甚なことです。

いままで職務遂行ができたのは月並みではございますが、上司、先輩、同僚、後輩の皆さんの助けを受け、更には先生方の励ましやご支援の賜とっております。

これまでご指導いただいた多くの皆様、心より感謝申し上げます。また陰で支えてくれた家族にもありがとうございます。気持ちでいっぱいです。

これまでの勤務で印象に残っていることは、法人化を前にした総務課係長時代に当時の事務局長を囲み法人化後の大学運営や会議の在り方について課

長以下数人で東の空が白み始めるころまで、長々と話しあい薫陶を受けたのが、それからの仕事を進めていくうえで大いに役立ったことが懐かしく思い出されます。社会性や感受性豊かなコミュニケーション力を少しは向上させることができました。

若い時の様々な経験は今後の人生を豊かにするものです。職員が常に明るく人間的な魅力に溢れ、職員同士が尊重しお互いの立場を理解しあう関係が益々大切になってきています。

本学の歩みとともに自分が歩んできた道のりを振り返ると、長いようで短かったと感慨深いものがあります。

これから少しの余暇の中で、果樹や野菜の栽培、家族との旅行や趣味のゴルフにも動かし、丈夫で長生き、元気にプレーできるよう百寿を迎える頃にエージシュートを達成できたら嬉しく思います。引続き再雇用職員として勤務させていただく予定ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

定年にあたって

学務部 学生支援課長

田村 正美

Masami Tamura



私は昭和58年8月16日付で旧運輸省から転任してきました。転任して来た年は、東京ディズニーランドが開園した年であり、また、冬は所謂昭和56年豪雪に次ぐ昭和59年豪雪の年でもあり、豪雪地で育った者としても久しぶりの大雪には随分と閉口したものでした。

最初の仕事は、第1学年入試システムの開発ということで、諸先輩の指導の下コボル言語・文法の習得に始まり、HITACL-340、L-490等の小型汎用機を使用して、プログラミングしていました。現在のIT環境とは雲泥の差があり、当時は漢字出力もできない中でバグを潰すことに一生懸命でした。その後、平成に入って初めての海外実務訓練を手探りの中で経験させていただきました。等々。

ここまで約32年間、本学において様々な業務を経験させていただいたことを振り返ると、感慨深いものがあり、無事に今日のこの日を迎えられたことは、多くの教職員の皆様のご指導、ご支援、ご協力の賜物と深く感謝しております。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

4月からは引き続き再雇用職員として勤務させていただく予定ですので、これまでの経験を活かし少しでも皆様のお役に立てよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、本学の益々の発展と教職員の皆様のご多幸とご活躍を心から祈念して挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

仕事は仕事のほうからやってくる

学務部 学術情報課長

梶川 俊明

Toshiaki Masakawa



好きな仕事を探すのではなく、たまたま就いた仕事を好きになることの方が大切だと思うのです。第一希望の会社に入ったとしても、どの部署で働くかは自己決定できません。だから、仕事というのは自分で探すものではなく、仕事のほうから自分を探しに来るものだと思います。つまり、仕事というのは「呼ばれる」ところから始まります。天職、職業のことを英語ではcallingなどと言うことがあります。ようするに、「呼ばれる」ことです。「私はこれこれの能力があり、これこれの適性を備えているので、これこれの仕事がしたい」と叫んでいるうちに仕事が見つかるということで

はないのです。

私の場合は、三十数年前「うちにくる？」と誘われて、図書館の仕事に就き、それから何人かの人に誘われ各地を転々としてきました。今では、天職として仕事を続けられたことを、誘っていただいた人たちに感謝しています。ご縁があったと思っています。

退職に当たって

定年退職を迎えるにあたって思うこと



この度、定年退職する施設管理課の荒川です。長年にわたりお世話になりました。自分が国立学校等の施設整備の仕事に就いて37年間、今思えばいつも水との戦いだったような気がします。

採用当初は設備担当で、よく排水を詰まらせ「漏水」をおこし、給水トラブルで「断水」させたりと繰り返していました。

その後、建築担当になると屋根からの「雨漏り」対策に走りまわりますが、水はどんどん攻撃して来ます。しかし、もっと強敵なのは「結露」です。普段は空気中に潜ん

総務部施設管理課
施設整備係長

荒川 勝宏

Katsuhiro Arakawa

でいて様子を見ていて、気候の変化で急にガラスに姿を表すのです。でもそれだけでなく、その後、水滴となり流れ出し建物の中へ侵入し危害を与え我を惑わすのです。雨漏りなのか、漏水なのかも判断に迷うことが多々ありました。

これらのことで、大学等の教育・研究に影響を与え申し訳なく思っています。

どうぞ「水に流して」下さい。

定年を迎えて



6年ほど企業に勤めた後、昭和57年12月から本学にお世話になりました。企業と大学の職場環境の違いに大きな戸惑いと不安を感じながら仕事に就いたことを覚えています。専門書を読み返し、同僚や先生方にも助けていただき、1年目をどうにか乗り切ったことが忘れられません。その後も多くの方々にお世話になり、何とか32年間勤めることができました。

これまで、学部1年生の化学実験と、光・電子セラミックス研究室で教育・研究の一端に携わらせていただきました。入学したばかりの1年生は、実験経験の少ない学生が多いため、基本的な実験作法を教えることから始まり、安全に実験を行うことにとても気を遣ってきました。実験の現場で最初からお世話になった鈴木美和子先生には多くのことを教わり、感謝の気持ちでいっぱいです。研究室では、齋藤秀俊先生の研究をサポートする中で、本質を見

技術支援センター 副技術長

大塩 茂夫

Shigeo Ohshio

抜く大切さ、新しいことを見出す嬉しさを改めて実感し、いつも新鮮な気持ちで仕事に向かうことができました。同じ部屋で過ごした学生との思い出も尽きません。

最後の10年間は、科学実験を取り入れた英語教育に参加する機会にも恵まれました。英語教材としての実験ビデオ作成を通して、異なる分野の教育に関われたことは、仕事のスパイスにもなっていたように思います。村山康雄先生はじめ英語教員の方と仕事できたことは貴重な経験となりました。

振り返れば多くの出会いがありました。その一つ一つがあって今日まで仕事を続けられたと思います。これまで支えていただいた教職員・学生の皆様、本当にありがとうございました。最後に、本学の更なる発展と皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

シリーズ 全国高専めぐり

第十七回 小山工業高等専門学校

地域とともに歩む NIT、小山高専

独立行政法人 国立高等専門学校機構
小山工業高等専門学校 校長

大久保 恵

Satoshi Okubo

本校は、徳川家康が関ヶ原の戦を決意し天下統一を果たすきっかけとなった歴史的軍議「小山評定」にゆかりの栃木県小山市に昭和40年に設立されました。以来、「技術者である前に人間であれ」(校是)を掲げて豊かな人間性と創造性の伸長に主眼をおいた実践的技術者の育成に努めてきています。学科等は機械系、電気電子情報の複合系、物質系および建築系の4学科および複合的専攻科で構成されています。これまでに7400余名の卒業生、300余名の修了生を輩出しており、国内外で活躍しています。

小山高専はロボコン全国大会には毎年のように出場し、平成24年ロボコン大賞受賞に示されるように高いロボット技術の伝統が築かれています。写真は貴学の協力による三機関連携事業の一環でロボコン大賞受賞のフレンドルフィンチームがアメリカの大学との交流の様子です。また、小山市と地元酒蔵会社との連携で市花である思川桜の酵母を活かした

新酒「思川桜」の開発、隣接の栃木市に設置しているサテライトキャンパスを活用した公開講座等、多くの地域連携活動を学生教育と連動させて進めているのも大きな特色です。

本年の創立50周年を機に地域社会や貴学等との連携をさらに深め、イノベーションを先導できる創造的・実践的技術者の育成に進化しようと考えています。

小山高専URL <http://www.oyama-ct.ac.jp>



小山市の花「思川桜」とその酵母を使って開発した新酒「思川桜」

小山高専の校内風景▶



フレンドルフィンチームの海外交流の様子
アメリカオーリン工科大学にて



小山高専から長岡技大へ▶▶▶

充実した学生生活



材料開発工学課程
3年

小寿田 貴士

Takashi Kosuta

小山高専

物質工学科

平成26年3月卒業

私は化学について学びたいと思い、小山高専へ入学しました。入学後は勉強だけでなく、部活動や小学校への出前授業などに積極的に参加しました。また、研究室の仲間と協力し合いながら卒業研究をやり遂げたことは、とても良い経験となっています。

本学に入学後は、光・電子セラミックス研究室に所属し、低コスト、低エネルギーで酸化物膜を形成するという本学が確立した方法について研究しています。このほかにも、本学が独自に

確立した技術が多くあり、企業との共同研究が盛んに行われています。そのため、企業に勤めている人とディスカッションをする機会が多く、授業だけでは得られない知識などを知ることができます。

本学は高専出身者が多く、他の大学と比べると馴染み易い環境です。また、サークル活動も充実しており、楽しい学生生活を過ごしています。高専から大学へ進学を考えている人は、ぜひ本学へ来てください。

修士論文発表会のレポート

ー 経営情報システム工学専攻 ー

2月4日(水)から5日(木)にかけて、経営情報システム工学専攻の36名の学生における修士論文発表会が本学マルチメディアシステムセンターで行われました。

修士課程での研究生生活の締めくくりとして、日頃取り組んできた自身の研究の成果を発表しました。

馬場 美早紀さんの発表の様子



発表テーマ

地域別太陽光発電システムの導入拡大対策とエネルギー・環境・経済効果に関する定量的研究

中野 匠君の発表の様子



発表テーマ

ウェアラブルカメラを用いた組立作業における作業分析に関する基礎研究

杉山 和成君の発表の様子



発表テーマ

外国為替証拠金取引におけるトレーリングストップ注文を利用した自動売買プログラムの開発

田村 伊吹君の発表の様子



発表テーマ

水難事故防止シミュレータ開発のための基礎的研究

編集後記

長岡技術科学大学の卒業生・修了生は、様々な分野で活躍してくれることでしょう。また、今後、社会の様々な困難に立ち向かわなくてはならないでしょう。そんなとき、2002年ノーベル物理学賞を受賞した小柴先生の言葉「運がいいなんてありえない。チャンスは周到な準備をした者だけにやってくる。」を思い出してみてください。きっとその困難を乗り越えられると思います。卒業生・修了生のみなさんは、今まで周到な準備をしてきたわけですから。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality,Originality,Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.186 [平成27年3月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

TEL. 0258-47-9209 FAX. 0258-47-9010 (企画・広報室)

E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。